



日々燦々



ナカノリエ

ようこちゃんへ

こんにちは、お仕事でお忙しくお過ごしのことと思います。

例によって、悩み事の相談ばかりで、申し訳ないのですが、今日もそんな感じ
です。

最近、のりちゃんのママやカナちゃんのママが目を合わせてくれなくなり、また何
か嫌な思いをさせてしまったのかなと思っています。

思い当たる所はないのですが、もし何かあったのなら、謝りたくて。

ようこちゃん、何か聞いていませんか？

と、いうところまで、メールを打って、手を止めた。

そうだ、ようこちゃんも同じだ。

本当は今日、久しぶりにようこちゃんに会ったので、そんなことを相談したかった
のだ。

ようこちゃんは手振るだけで、近づき難い様子で、話すのを躊躇った。

躊躇ったから、メールにしようかと思ったのだけれど、ようこちゃんの様子もよく
考えると、名前のママと同じだ。

こんな風に、親しかったつもりの人がどんどん離れていく。

毎度毎度、何がそこまであったのだろうと思う。

誤解を解くために、働きかけるけれど、時すでに遅し。

そこまでいって気づいた時にはもう十分遅いのだ。

大抵、卒園まで、返してもらえない挨拶だけ続けることになる。

何がそんなに難しいのだろう。

人づきあいは苦手だし「ホント、誤解されやすいよね」と友達は言う。

誤解なのか、誤解なのならまだ救いはある気がしたけれど、

解かれることのない無視という名のしがらみは、首に絡みついて、うまく過ぎさな
いと真綿のようにしまっていくのだ。

最後の一年、厳密に言えば、もう一年は切った。

この何年間で、何人こんな関係が積もって行ったろうか。

これだから、主婦はイヤだなと思いながら、自分も主婦じゃない、とおかしくなった。

風変わりを愛されないことが不幸なのか？

少なくとも、風変わりを楽しんでもらえないことは残念だ。

人から見た自分がどんなものなのかは、わからない。

わからないけれど、そんなに見難いものなのか。

それとも、幸せいっぱいなアホに見えるのか。

こと、家庭生活においては、他の人から見るといろいろあるらしい。

自分にとっては普通でも、人の目から見ると奇異で「ホントにそれでいいの？」と煽られたりした。

普通の人々の「ホントにそれでいいの？」に疑心暗鬼になって、夫と不仲になった時期もある。

夫は冷静だった。

「大分、煽られているみたいだけど、やっかみを真に受けているんじゃないの？」と心配された。

人間、一番怖いのは嫉妬だ。

私が受けているのが嫉妬なのか何なのか、本当のところはわからない。

ただ、家庭生活は千差万別で、二つと同じものはない。

なんとなく似たところできあいが発生したりするのだ。

けれど、その出発点が大きな過ちの元だ。

【似ている】ことは【同じではない】ということなのに、人はそれを忘れてしまう。

いつの間にか【同じでないこと】は裏切りになり、突き上げの対象になる。

ただ、それをそういうものだと思流すのは、私にはまだまだ難しい。

摩擦は起きる。

傷はつく。

いつものことだ。

涼しい仮面を被って、腰は低く、頭は垂れて、通り過ぎる。

「疲れるなー。」

つまらないことも込みで楽しい毎日。

大きく伸びをして、さっきのメールは消した。